

回復期リハビリテーション

■総合的なリハビリテーションの提供

回復期とは、脳血管障害や大腿骨頸部骨折、頸髄損傷の手術や急性期の治療を受けて、病状が安定し始めた1～2ヵ月後の状態をいいます。

この回復期といわれる時期に集中的なリハビリテーション訓練を行うことが最も効果的です。当院では7階にリハビリテーション専門病棟(回復期リハビリテーション病棟)を配置しており、病状の安定された患者様を速やかに受け入れ、生活再建という視点でリハビリテーションを提供いたします。

回復期リハビリテーション病棟では、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が専任で配置されており、ご家族・患者様とともに自宅復帰に向けた集中的なリハビリテーションが可能となります。

また、必要に応じて当院の医療ソーシャルワーカー・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士や、地域の介護支援専門員(ケアマネージャー)とのチームアプローチが可能であり、総合的なリハビリテーションを提供致します。

■回復期リハビリテーション上位病院として紹介

当院の回復期リハビリテーション病棟は日本経済新聞と医療専門誌「日経メディカル」が共同で実施した「脳疾患治療の実力病院 全国調査」で紹介されました(日本経済新聞 平成19年2月11日より)。

「患者への情報開示や医療の質を高める取り組みなどの「過程」及び、脳血管疾患の患者様の自宅復帰率「治療成績」が特に高い評価を受け「回復期リハビリテーションの上位病院」として位置付けられました。



スタッフ会議の様子

■回復期病棟への入院要件

回復期リハビリテーションは全ての患者様が受けられるとは限りません。新たな保険制度、診療報酬改訂により、「疾患別診療報酬の設定」「発症から入院までの期間の制限等」が定められ、対象は下表にあてはまる方となります。詳しくは担当医にご相談ください。

【回復期病棟の対象疾患】

対象疾患	入院までの期間	入院限度期間(注1)
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、クモ膜下出血のシャント術後、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症等	発症または術後2ヶ月以内	150日以内(注2)
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節 または膝関節の骨折	発症または術後2ヶ月以内	90日まで
外科手術または肺炎等の治療時の安静により 廃用症候群を呈している	術後、または肺炎等 発症後2ヶ月以内	90日まで
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節または膝関節の 神経、筋、または靭帯の損傷	1ヶ月以内	90日まで

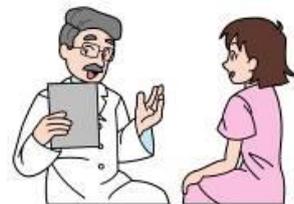
注1)回復期病棟の入院期間は、疾患または身体状況・リハビリ効果等により異なるため、リハビリ医師が多職種と適宜検討を行い決定させていただきます。

注2)高次脳機能障害を伴う重症の脳血管障害、重症の頸髄損傷、および頭部外傷を含む多部位外傷の場合、入院限度期間は180日以内となります。

■ご自宅に帰るまでの基本的な流れ

入院・転科

(当院急性期病棟からの転科または、他院からの転院)



リハビリ医師が診察をしてご本人に合わせたプランを作成します。
(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士へ訓練依頼)



医師の指示のもと、各療法士が評価・訓練を開始いたします。



定期的に訓練状況・予後をご本人・ご家族へ説明いたします。
(介護支援専門員等やソーシャルワーカーが必要に応じて同席します)

外出・外泊訓練を通して、退院に向けた準備を開始します。

自宅退院



注)患者様の病状により、上記の流れは異なることがありますのでご了承ください。